

平成 28 年度

地域の教育支援活動推進管内別研修会（留萌会場）報告書

目 的

留萌管内における地域の教育支援活動を推進する人材の資質向上を図るとともに、地域の教育支援活動の一層の充実を図る。

主催：北海道教育委員会・北海道

共催：北海道「体験の風をおこそう」運動推進協議会・苫前町教育委員会
遠別町教育委員会・初山別村教育委員会

主管：北海道教育庁留萌教育局

日時：平成 28 年 8 月 29 日（月）9:30～12:30

場所：苫前町公民館

説 明 「北海道の子どもの現状と課題」

北海道教育庁留萌教育局教育支援課社会教育指導班主査 為 広 千 里



ねらい 子どもたちの現状と、北海道及び留萌管内でどのような取組が進められているかを知り、今後の活動に生かす。

平成 27 年度全国学力・学習状況調査の結果をもとに、北海道及び留萌管内の子どもの現状について、家庭学習時間が全国平均よりも短い傾向があること、テレビを見たりインターネットを利用したりする時間が全国平均よりも長いことなどの現状を説明しました。また、子どもたちのネット利用も含めた望ましい生活習慣の定着を図るための「どさんこアウトメディアプロジェクト」を全道的に推進していることや、留萌管内における学習習慣や生活習慣の定着を図るための様々な取組について紹介しました。

講 義 「体験活動がもつ力と可能性」

国立大雪青少年交流の家所長 阿 部 豊 氏

ねらい 教育は学校だけで行われるものではなく、家庭や地域でも行われるものであることや、基本的な生活習慣の定着を図る取組や体験活動の機会が、子どもたちの自己肯定感の向上や自立的行動習慣の定着に結びついていることを知り、それぞれの立場で子どもを育む取組を推進するための視点を学ぶ。

1 規則正しい生活習慣と豊かな体験活動や読書活動が前向きな青少年を育む

平成 19 年度から行われている全国学力・学習状況調査の結果から、朝食の摂取と学力には相関関係があることが分かっていることや、国立青少年教育振興機構の調査により、様々な体験活動が、自己肯定感の向上や自立的行動習慣の定着に結び付いていることも明らかになっていることを説明しました。

2 北海道の子どもたちの現状

これまでの全国学力・学習状況調査の結果から、北海道の子どもたちは朝食を食べない割合が多く、睡眠時間が長いことや、テレビを見たりゲームをしたりする時間が長いため、当然、家庭学習や読書、運動の時間が少なくなっていることを説明しました。

3 生活習慣の定着と体験活動

国立青少年教育振興機構の「青少年の体験活動と自立に関する実態調査」の結果から、子どもたちの体験活動が多いほど、他者への思いやりや積極性が身に付いていること、保護者になってからは、その子どもも体験を行う傾向があることなどを説明しました。

4 家庭と地域の変化が子どもたちの体験活動の減少に…

兄弟姉妹の減少による家族の規模の変化、地域の人々のつながりの希薄化が、子どもたちが様々な立場と役割の中での人間関係を学ぶ体験の減少につながっていることを説明しました。

5 行政や私たちの役割

異年齢が交流できる事業や、地域の人々との関わりをもてる機会を提供し、子どもたちの人格形成を支援していく必要性が述べられました。



ねらい

リスクマネジメントについての基本的な考え方を知るとともに、リスクを発見したり、評価したりする活動を通して、リスクマネジメントの実際を体験する。



【講義：リスクマネジメントの基本的な考え方】

- リスクとは
損失が発生するかも知れない不確実な要素
- リスクマネジメントとは
リスクの存在、大きさを事前に把握し、適切な対処策を講じることで損失を小さくすること。

◆ リスクの評価 ◆

	確率高	確率低
危険大	リスク	
危険小		リスク

起こり得る確率が高く、危険度が大きいほどリスクが増すので、対応を講じるべき。



【演習：危険予知シートを活用した危険の予測及び状況に応じた対応の仕方についてのグループ協議】

- 危険の予測
川辺でのキャンプの様子が描かれたシートを見ながら、グループごとに考えられる危険を出し合いました（5分間）。その後、各グループの意見を発表し、交流しました。

- 状況に応じた対応の仕方についてのグループ協議

登山の途中で体調を崩した参加者への対処について、グループ内で話し合い、意見をまとめました。

*** スタッフ間で事前に考えられるリスクを洗い出し、対応について認識を共有することが大切です ***

演習 「室内遊びのABC」

ねらい

身近な道具や簡単な道具を活用した遊びを体験するとともに、自分たちでルールを考えながら、子どもたちが楽しめるゲームを考案する演習を通して、今後の活動に生かす。

【準備運動】

- 「早寝早起き朝ごはん体操」を、全員で体験しました。

【身近な道具（新聞紙）を使ったゲームの体験】

- 1 新聞紙をお腹に巻き、落ちないように走ります。折り返して戻ったら、次の人にバトンタッチします。
- 2 床に新聞紙を広げて置き、足がはみ出ないように一人ずつ乗ります。一番多い人数が乗ったチームが勝利します。



【限られた道具で工夫し、ゲームを考案】

- 各グループで空き缶やボール、フラフープなどの道具を選択し（複数可）、簡単に楽しめるゲームを5分間で考案しました。
- 各チームで考えたゲームを発表し、一番人気の高かったゲームを全員で体験しました。



- ◆考案されたゲーム…「空き缶積み」「空き缶とラグビーボールでボーリング」「輪になってフラフープくぐり」など。

参加者の感想

- 道内の子どもたちの学力と体力の現状がよくまとめられていて分かりやすく、留萌管内での取組については知らなかったことが多かったので大変勉強になりました。
- 実際に子どもたちと体験活動をされている方のお話を聞くことができ、とてもよかったです。学力や体力の向上が倫理観や正義感に関わることは初めて知りました。
- リスクは考え始めるとたくさんあると思いますが、リスクにもいろいろなものがあるって、安全と危険のバランスが大切だと学べてよかったです。
- 自分たちでゲームを考えるというのは初めてでした。少ない物でも楽しく遊べることが分かりました。